

挑む私学



世界基準の教育改革を推し進める神戸山手グローバル中学校高等学校

神戸山手グローバル中学校高等学校

共学化ではなく
「グローバル化」による再生

少子化と教育ニーズの多様化が進む中、私立校はその存在意義を問い直されている。生徒数の減少、教育費の上昇、地域人口の流出―そうした逆風の中で、一部の学校は大胆な改革によって新たな道を切り開いている。

神戸山手女子中学校高等

ら、コーチングしつつ計画を修正していく」と平井校長はその狙いを説明する。

このシートはクラウド上で保護者と共有されており、生徒の記録に対する担任のコメントも毎日即時に保護者へ配信される仕組みになっている。学習の内容や進捗状況が家庭と学校の双方で共有され、学習の質



平井正朗 校長

の担保にも繋がっている。一方、360度カメラは主に探究学習やグループワークで利用される。生徒の発話や動きがすべて記録され、授業後の自己振り返りに活用されている。

学校は、2020年の法人合併を機に改革の舵

を切り、2025年4月には共学化し『**神戸山手グローバル中学校高等学校**』として生まれ変わった。その中でリーダーシップを発揮する平井正朗校長は、グローバル教育を学校の核に据える方針を明確に打ち出した。

「共学化したから生徒が増

「教育の未来」を問い直す壮大な挑戦

同校は、先端的なICT教育を実施している学校として、文部科学省推進事業『**高等学校DX加速化推進事業**』（DXハイスクール）の認定を受けている。その一環として、英語プログラム教育の充実を図っている。

また、外国ルーツの生徒支援においても、文部科学省推進事業「高度外国人材子弟の教育環境整備に係る調査研究事業」にも採択された。このプロジェクトでは、同校と関西国際大学、マリスト・ブラザーズ・インターナショナルスクールが連携し、神戸市、神戸市教育委員会事務局（こども日本語サポートひろば等）が連携して、海外ルーツの生徒を支援していく。

えたものではありません。グローバル化」したからこそ、子供たちに選ばれるようになったのです」と同校の平井校長は語る。

その言葉通り、「国際都市神戸」という立地のもと、先進的なグローバル教育を進めている。イマージョン教育の実施、多国籍教員の積極採用、管理栄養士やコールセンター付きの新築の学生専用マンションの設置。AI同時通訳イヤホンを導入し、日本語の到達度が充分でない外国ルーツの生徒に対する「学びの保障」も制度的に整えている。

現在、生徒の約3割が、海外ルーツ。これまでに中国・台湾・ロシア・トルコ・イタリア・ブラジル・ペルーなど、多岐にわたるものもその証左だ。

神戸市中央区にある私立中高一貫校『神戸山手グローバル中学校高等学校』。その前身は女子校で、2024年には創立100周年を迎えた歴史と伝統のある学校だ。しかし、ここ数年は生徒数の減少に直面し、一時は中学1学年にわずか8人という状況まで追い込まれていた。だが、今では共学化し、外国ルーツの生徒を含め生徒数が大幅に増加。進学実績も飛躍的に伸びている。その背景には単なる共学化ではない「世界基準」の教育改革がある。

柔軟かつ多様な学びを可能にした教育体制

同校はコース制を再編成し、これまでの女子教育を引き継ぐ『未来探究コース』（女子）の他に、『グローバル選抜探究コース』『選抜コース（高校のみ）』（ともに共学）を設置。従来の女子校としての教育文化を活かしつつ、多様な生徒に対応できる柔軟な体制を整えた。

教育現場では数学、理科、家庭科、音楽などでは英語イマージョン教育が実践されている。また、習熟度別授業が取り入れられ、『**グローバル選抜探究コース**』では日本人教員と英語のネイティブ教員が2人でクラスの担任を務める体制を整えた。同校に在籍し

ている外国人の先生は非常勤を入れると13人。そのうち7人が担任をしている。同校の教育改革における特徴の一つが、「学習の可視化」と「自律的学び」の両立である。その象徴が、全学年に導入された「タイム・マネジメント・シート（学習計画表）」と、探究型授業で用いられる360度カメラの活用だ。

タイム・マネジメント・シートは、いわゆる週間学習計画表だが、従来の「計画通りやる」ものとは異なる発想に基づいている。

「予定は未定。予定通りにやれる生徒は少ない。だからこそその自己調整学習。担任が毎日チェックしながら

同校の「グローバルな環境」は、日本人の生徒たちにとっても大きなメリットとアドバンテージをもたらす。語学を学ぶだけでなく、多国籍の生徒と自然と交流する中で、その背景にある学び方・感じ方の違い、多文化を理解し、日本の学校の中で世界基準を学ぶ空気が醸成されているからだ。

こうした改革の結果、かつては短大進学が中心だった進路実績が大きく様変わりし、現在では卒業生の約9割が4年制大学へ進学するようになった。海外大学への進学希望者もあり、すでに数名が出願を進めている。

平井校長は、学校改革の一端を担う存在として、学習塾の役割にも期待を寄せる。

「単に難関大学に入れる学

校ではなく、世界基準の教育を実践する学校を探すことも塾の一つの仕事だと思います。そのうちの1校として私たちの学校が選ばれると嬉しいですね」と話す。



多種多様な人材を受け入れ、「教育の未来」を探究していく

「世界基準」で描く教育の次の100年
神戸山手グローバル中学校高等学校

グローバル化、探究、ICT、人的育成―神戸山手グローバルが描く「教育の未来」は、教育の本質を問い直す壮大な試みでもあり、どこにもない「オンリー・ワンの学校」を目指す。その挑戦は、今まさに始まったばかりだ。